課題３

進路指導の充実に向けた方策

○　生徒の能力や適性，希望に応じた進路指導を行う必要がある。

論　点

□　一般就労を含め，生徒の能力を生かし社会参加につながる進路指導の方策について

第１回審議会の意見

○　就職はゴールではなく，スタートである。就職してからが大変である。

第２回審議会の意見

○　軽度の知的障害の生徒に対する適切な学習や作業が必要である。
○　児童生徒の目指す進路や適性に応じたコース別の指導を充実させることは，個に応じた進路指導をしていく上で重要である。
○　自立にとって本当に必要な知識や態度を培っていくために，能力別，進路別などの作業班や学習班を設けていく必要がある。
○　一般就労したが人との関わりが難しく，施設に戻ってくる子どもがいる。
○　就労移行支援を行う施設との連携を図る必要がある。
○　高等学園の定員を増やしてはどうか。
○　仙台市内に高等学園があるとよい。

（想定される方策）
・　一人一人の進路希望や障害の状態等に応じた教育課程の編成や作業学習の内容・方法を検討する。
・　社会生活で必要なソーシャルスキルを身につけるための学習内容を取り入れる。
・　学校見学会等を通じて連携を深めることにより，企業とともに障害のある生徒の理解促進を図る。
・　「個別の移行支援計画」等を用いて，就労先への情報提供を行うとともに，継続した支援を就労先と連携しながら行う。
・　就労移行支援を行う施設との連携を図り，卒業生が就労するための支援を継続して行う。

課題４

障害の重度・重複化，多様化に対応するための方策

○　障害の重度・重複化，多様化がみられ，それぞれの児童生徒の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る必要がある。

論　点

□　障害の重度・重複化，多様化に対応するための方策について

第１回審議会の意見

○　子どもたちへの多様な対応を行うために，教員の専門性の維持・充実が課題である。

第２回審議会の意見

○　医療的ケアは命に関わる問題であり，教員の専門性の向上が重要である。
○　福祉の免許を持つ教員にアドバイスを受けるとよい。
○　様々な外部専門家の活用を図るとよい。
○　介護福祉士は高齢者だけでなく，障害のある者についても学んでいるので活用を図るとよい。

（想定される方策）

・　それぞれの障害種，障害の状態に対応できる専門性の向上のため校内研修会の充実を図るとともに，総合教育センター等の研修への参加を促進する。
・　外部専門家のアドバイスを受け，指導内容・方法の改善及び充実と教員の専門性の向上を図る。
・　個に応じた適切な指導ができるよう，「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は複数の教員や関係者・機関が関わり作成する。
・　児童生徒の様子や各学校の状況に応じ，自閉症等の児童生徒の情緒の安定を図るための場所の確保を図る。
・　医療的ケアに関する教員の専門性を高め，看護師と連携してより適切に実施する体制を構築する

課題５

軽度の知的障害のある高等部段階の生徒に対する教育について

○　県内に２校ある高等学園の受検者数は１００人を超える状況であり，特別支援学校の高等部へ進学する軽度の知的障害のある生徒も増えていることから，こうした生徒に対する高等部の教育の在り方について検討する必要がある。

論　点

□　軽度の知的障害のある高等部段階の生徒に対する環境整備について

第２回審議会の意見

○　教育課程を部分的に分けて，類型化し，一人一人の教育的ニーズに応じた指導をしていかなければならない。

○　高校との交流も考えなければいけないのではないか。

（想定される方策）

・　軽度の知的障害のある生徒の実態に応じた教育課程の編成を行う。

・　学習グループの編成や学習内容・指導方法の改善等を行う。

・　地域や職場でより円滑に人と関われるよう，高等学校との交流及び共同学習を積極的に推進する。

課題６

交流及び共同学習の推進

○　特別支援学校の児童生徒の居住地校学習への参加率は３０％前後となっており，さらに多くの児童生徒が参加できるような方策が必要である。

論　点

□　交流及び共同学習をさらに充実させるための方策について

第１回審議会の意見

○　居住地校学習について，通常の学校側からの評価を知りたい。

第３回審議会の意見

○　「居住地校学習」参加のための送迎は保護者の負担になっており，参加，拡大の妨げになっている。
○　山元支援学校では亘理町，山元町の８校と連携し，交流及び共同学習にあたっての合理的配慮の事例を蓄積する取組を行っている。
○　協力校，支援学校ともに活動がしやすいような配慮がなされるとよい。
○　希望者だけではなく，全員が参加できるようなやり方にすることが必要である。
○　震災当時，避難所などに知っている人がいたことで安心できたり，配慮してくれたりしたことからも居住地校学習の意義は大きい。
○　障害のある子どもの非常災害時の避難経路・方法や地域住民による支援について，地域内で日頃から検討を行うためにも全員が参加できるとよい。
○　通常の学校が意識を高めて，支援学校や福祉施設に積極的に交流学習を求めることが必要である。
○　特別支援学校と市町村教育委員会が情報連絡会などを開催できるような関係であると良い。
○　手紙や作品の交換など，間接交流ができるとよい。
○　年に数回の交流ではなく，子ども会などを通じた日常のつながりが大事であり，その際には教員の支援も必要である。
○　多様な子どもたちへの理解を深めることが大事である。
○　卒業後も地域とのつながりが必要である。

（想定される方策）

- 交流及び共同学習を教育課程に位置づけ，計画的に推進する。
- 児童生徒が主体的に活動に参加できるよう，特別支援学校と通常の学校双方で学習内容を検討する。
- 通常の学校の児童生徒にとっても社会性や豊かな人間性を育むことにつながるなど，交流の意義を十分に理解してもらえるような取組内容を検討する。
- 障害の状態等に応じた様々な配慮を行う。
- 障害のある児童生徒が交流及び共同学習を行う際の学習内容，合理的配慮などの事例を蓄積し，その情報を共有する。
- 居住地校学習における送迎，付き添い，安全の確保の在り方を検討する。
- 手紙や作品のやりとりなどを通じて，居住する地域の児童生徒と間接的な交流を図る。

課題７

特別支援学校のセンター的機能のさらなる充実

○　発達障害など特別な支援を必要とする児童生徒への対応が喫緊の課題となっており，センター的機能の充実が求められている。

論　点

□　センター的機能をさらに充実させるための方策について

第１回審議会の意見

○　地域におけるセンター的機能のさらなる充実が必要である。
○　センター的機能はとても助かっている。
○　センター的機能について，通常の学校側からの評価を知りたい。
○　特別支援教育コーディネーターを複数，配置してはどうか。

第２回審議会の意見

○　インクルーシブが進んでいく中で，センター的機能が非常に重要視されてくる。
○　特別支援学校の教員が専門家から学び，自分たちの学校に生かし，さらには通常の学校の教員にも伝えられるとよい。

第３回審議会の意見

○　センター的機能を利用することが大事である。
○　センター的機能の要請は増大している。
○　センター的機能の充実を図るためには，居住地校学習と同様に後補充が必要である。

（想定される方策）

- センター的機能について，幼稚園・保育所，小・中・高等学校等対し，更なる理解啓発を図る。
- 幼稚園・保育所，小・中・高等学校で作成する個別の教育支援計画，個別の指導計画の作成や活用等について，積極的に支援を行う。
- 必要に応じ特別支援教育コーディネーターの拡充を検討する。
- 総合教育センター等の研修を積極的に活用しながら，専門性の向上を図る。
- 障害種別毎の特性を理解し，指導できる高い専門性をもつ人材の育成を図る。
- 各支援学校のそれぞれの専門性を生かし，多様な相談に対応することができるように，学校間での連携を強化する。
- 教育資源の組み合わせにより，児童生徒一人一人の教育的ニーズに応えるための体制を整備する。
- 特別支援学校の教員が積極的に小・中学校の校内研修会や授業公開等に参加して，日頃から支援先の小・中学校の状況理解に努める。
- 特別支援学校の教員が積極的に小・中学校の校内研修会や授業公開等に参加して，日頃から支援先の小・中学校の状況理解に努める。